

至元通行寶鈔のパスパ文字

中村雅之

1. 至元通行寶鈔について

元代には数種の紙幣が発行されたことが知られているが、その影印が容易に見られるのは中統元寶交鈔と至元通行寶鈔である。ただし前者はあまり状態のよいものがないため、ここでは至元通行寶鈔によって、そこに記されたパスパ文字に関するいくつかの点を述べることにする。

今回用いるのは、『中国民族古文字図録』(中国民族古文字研究会編、中国社会科学出版社、1990) [資料①]と『八思巴字与元代漢語[資料彙編]』(羅常培・蔡美彪編著、科学出版社、1959) [資料②]に掲載されたものである。¹



資料①



資料②

この紙幣の額面価格は「貳伯文」(=二百文)²で、その価格表示の左右にパスパ文字が記されている。上に掲げた二種の紙幣は同内容ではあるが、同版ではない。

1 ただし、資料②はもともと誤ってネガを裏返しにして焼き付けたものが影印されているので、ここでは画像処理を施して左右反転させ、あるべき姿に戻している。

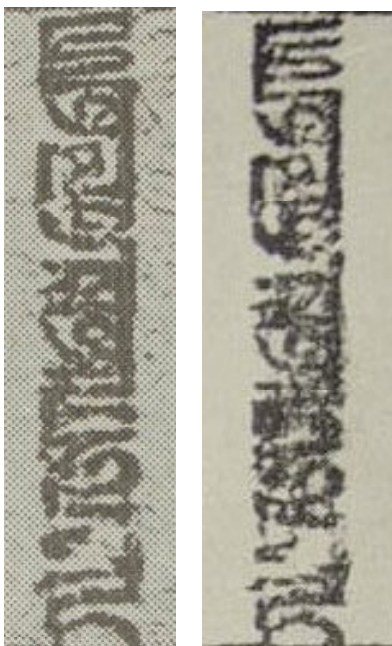
2 「伯」と「百」は同音。ともにパスパ文字表記は「bay」である。この時代の大都音(=北京音)にはまだ文言音(ピンインのbo)に相当する音はない。

2. パスパ文字について

至元通行寶鈔を含む元代の紙幣については前田1943に詳細な解説があり有用である³。しかし、そのパスパ文字の転写にはかなりの誤りがあり、残念ながら全く従うことができない。時代の状況や前田氏が病状にあったことにも原因はあるが、そもそも氏は歴史学者であって文字や言語の研究者ではなかったということである。

至元通行寶鈔に記された二行のパスパ文字は漢語を表記しており、左行が「ji 'üen bav čav」(=至元寶鈔)、右行が「jeu lu t'uj hīn」(=諸路通行)と読める⁴。パスパ文字の通常の表記法として、左から右に行を追って読めば、「至元寶鈔は諸路に通行する」(つまり、全国で通用する)とも読める。あるいはこの二行をそれぞれ独立したものとして読むことも可能であろうが、いずれにせよ「諸路通行」は伝統的な漢文の語順ではなく、漢児言語やそれを基盤とした行政文書に特有の語順と言えよう。興味深いことに、パスパ文字漢語は通常対応する漢字とともに記されるが、ここでは直接的に対応する漢字表記がない。したがって、このパスパ文字漢語を読むには周囲に記された漢字を一通り眺めて、それぞれのパスパ文字表記に漢字を引き当てる作業が必要になる。このように完全対音になっていないパスパ文字漢語の資料は極めて珍しい。

パスパ文字の字形については全体として規範的と言いが、右行が刷りの悪さなどもあって少し読みにくい。右行第一字の「jeu」は、「j」の部分がやや心許ない字形になっている。とりわけ資料①はほとんど「j」に見えない。左行の第一字と比較すれば差は歴然である。右行第二字「lu」の「l」もともにやや崩れている。



しかし、版を異にする二枚の紙幣において、なぜ同じ部分に刷りの悪さなどの共通する特徴が生じるのか、疑問である。それは右行最後の「hīn」の字形についても言える。ともに「i」の部分が少し欠けている。また「i」の部分は、資料①では「e」にも見える字形になっている。資料②では、刷りが明瞭ではないが、「i」のように見える。「行」のパスパ文字表記は、現存する『蒙古字韻』ロンドン写本では「hejn」であるが、碑文や「パスパ字百家姓」の中には明瞭に「hīn」と記されたものがある。また、『四声通解』所引の『蒙古韻略』のハングル表記も「hhiing」である。つまり、「行」に対する規範的なパスパ文字表記は「hīn」であったと考えてよい。至元通行寶鈔の表記もそれを意図しているのであろう。

ところで、今回扱った二枚の至元通行寶鈔は、上に述べたように、同版でないにもかかわらず刷りの悪い部分が共通している。さらに、「hīn」が期待される「行」の表記は、資料①の方がより崩れて「hejn」(資料①右行) (資料②右行) に近くなっている。したがって、敢えて憶測を述べれば、資料①は資料②(と同版のもの)に基づいた贋作である可能性がある。ただし、別種の至元通行寶鈔にも上二種と同じ特徴があれば、それらの特徴は至元通行寶鈔のオリジナルに遡ることになる。

3 前田直典1943「元の紙幣の様式に就て」(前田1973所収)。

前田直典1973『元朝史の研究』, 東京大学出版会。

4 パスパ文字の転写は、吉池孝一2005「パスパ文字の字母表」『KOTONOHA』37. による。